



体を作る大切な「食」

大野西小学校児童が、「食」について学ぶ

2月20日、大野西小学校5年1組で、栄養士による「食」についての学習が行われました。身近な「おやつ」をテーマに、カロリーや食品添加物の働き、食事とのバランスを考えながら選ぶことの大切さを学びました。

学校栄養職員の外輪佳恵さんは、「おやつイコールお菓子と考えず、果物やおにぎりでもいいんです。何が含まれているのか考えて選ぶことが大事です」と話してくれました。



大野西小学校では年間を通して、学年に応じたさまざまなテーマで「食」について学習しています。

ハツラツ！市民ウォーキング大会

日頃の健康づくりへの第一歩。宮島を歩く

ハツラツ！市民ウォーキング大会が3月16日、宮島で開催されました。この日ウォーキングに参加したのは520人。

廿日市全域から集まった参加者は宮島学園に集合し、ストレッチ体操をすると、1.5km・3.5km・8.5kmのコースに分かれ、包ヶ浦や紅葉谷公園などを歩きました。また、各地域からウォーキングリーダーやスタッフが集まり参加者をサポートしました。



宮島のまち並みを見渡しなが歩く参加者。ウォーキング前のストレッチには市の健康づくりキャラクター「ハツラツはっちゃん」も登場。



金剛寺小学校3年1組の「むかえじぞう」。18人、息ぴったり演技を見せました。



前空朗読会の「宮島の朝」。宮島に住む一家の一日を演じました。



最優秀に選ばれたブックリボンの「怪力覚丹さん」。所属する藤井千波（ふじい・ちなみ）さんは「舞台上では緊張しましたが、楽しくできました。朗読の輪がこれから広がってほしいですね」と話してくれました。

佐方地区防災訓練

もしもを想定、避難所体験で学ぶ

2月23日、佐方地区で防災訓練が行われました。この日参加したのは約120人。早朝の時間帯に五日市活断層による直下型地震が発生したと想定。地震が起きたときの被害状況の確認や佐方市民センターへ避難しました。

市民センターでは避難生活スペースを避難者自らが設営。マットと段ボールを組み立て、実際の避難生活をどのような場所で過ごすのかを体感しました。



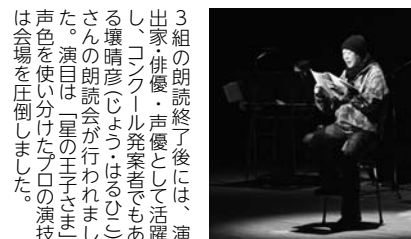
組み立てられた避難所の様子。避難生活の実態や対策の講話や非常食の試食も行われました。

はつかいち朗読劇コンクール本選会

個性豊かに思いを込め、声で演じた3組

2月23日、「はつかいち朗読劇コンクール本選会」がさくらびあ大ホールで開催されました。

1月18日に開催された予選会に出場した16組から3組が選ばれ、本選へと進みました。出場したのは「金剛寺小学校3年1組」、「前空朗読会」、「ブックリボン」の皆さん。それぞれ、個性のある朗読で観客を魅了しました。最優秀に選ばれたのは、ブックリボンの「怪力覚丹さん」。佐伯に伝わる民話・伝説をアレンジした作品を語りや登場人物を豊かに表現する朗読劇を披露しました。



3組の朗読終了後には、演出家・俳優・声優として活躍する塚崎弘樹（じまざき・ひろき）さんの朗読会が行われました。演目は「星の王子さま」。声色を使い分けたいわゆる演技は会場を圧倒しました。

第18回おんたとこの市民フォーラムinはつかいち

育児と仕事を両立する社会の実現をめざして

3月8日、さくらびあで駒崎弘樹さんによる「僕らがほしい未来を手にする方法～社会を変えるパパになる～」と題した講演会が行われました。

熱を出した子どもの看病で職を失った人をきっかけに、病気になった子どもを預かるビジネスを立ち上げた駒崎さん。「働き方は変えられる。私たちが働き方を変えれば世の中は変わっていくんです」と力強く話しました。



参加者の意見も聞きながら講演した駒崎さん。自身の経験を交えた話やクイズも取り入れ、参加者は駒崎さんの話に聞き入っていました。



問合せ 消防本部警防課 ☎9233

第7分団第1部3班（佐伯）の鈴木理衣奈（すずき・りいな）さん・浩仁（ひろひと）くん。子育てをしながら消防団の活動を続けています。

■女性消防隊の発足に向けて

3月15日、廿日市市消防団女性消防隊（仮称）の発足に向けて、女性消防団員の会議が行われました。廿日市市では現在15人の女性消防団員が活動。

女性消防隊（仮称）発足のため、一人でも多くの女性の入団をお待ちしています。



3月15日、市内各地域から女性団員が集まり、話し合いが行われました。

災害のときには、各地域の実情に精通した地域住民で構成される消防団員の力が必要となります。

しかし、近年消防団員数は減少傾向にあり、高齢化も進んでいることから、将来の担い手となる若い団員の確保に取り組んでいます。

■消防団とは

消防団は、地域に密着した防災機関として「我がまちを災害から守る」という使命感のもと、地域で発生した火災の消火活動や、地震・風水害などの各種災害はもちろん、災害の予防広報などを行っています。また、地域住民の生命・財産を守る重要な役割を担い、地域の防災リーダーとして幅広い活動を行っています。

■消防団員の身分

消防団員の身分は、非常勤特別職の地方公務員です。

■入団資格

入団資格は、廿日市市内に在住または勤務している18歳以上の男女問わずどなたでも入団することができます。

■消防団員の活動

消防団員の活動は、火災時の消火活動、火災予防、風水害などの災害対応、警戒、捜索、演習・訓練、水利・機械・施設の点検、防火指導などです。

■消防団入団後の処遇

消防団活動に対する団員報酬および災害または訓練に参加した際に出勤手当が支給されます。

■入団申込み

廿日市市消防本部警防課・廿日市消防署・大野消防署・宮島消防署・廿日市消防署佐伯分署・廿日市市役所吉和支所へ申し込んでください。



第4分団第1部 部長
こばた・たけし
小畑 健志さん

現在、消防団は団員の高齢化が進んでいます。30歳未満の消防団員数が減少しており、平成5年には全団員に占める30歳未満の団員の割合が約26・7%であったのに対し、平成23年では約17・9%と、減少する状況となっています。そのため、地域を守る志を持った若い力が期待されています。

消防団は防災活動だけでなく、地域を盛り立てる一つの手段です。地域活動に参加したいと考えている人にとっても地域に関わるきっかけになるのではないのでしょうか。

消防をもっと身近に感じてほしいです。少しでも誰かの役に立ちたいという気持ちがある人は、ぜひお近くの消防団に問い合わせみてください。

地域を守る若い力が期待されています